

武術太極拳にたずさわるうえで欠かせない図解（図説）について、作成の手順、注意点について整理¹⁾²⁾する。これを把握しておけば、作成のみでなく、図解をたよりに新しい套路を学ぶ際にも有用である。

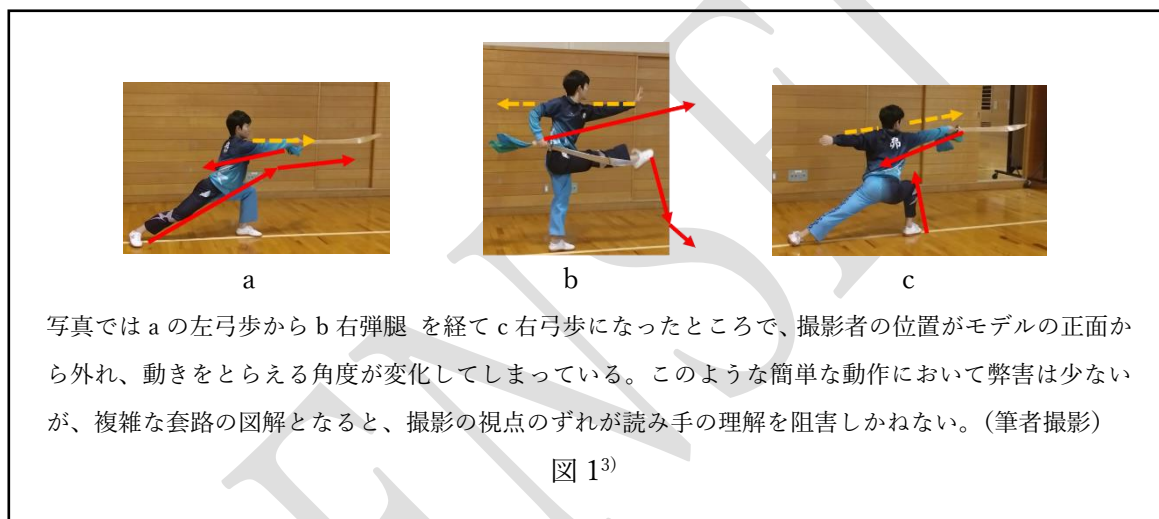
1. 撮影

モデルは絨毯、背景にまぎれない色の服装にする。

動作の順序に従い撮影する。

撮影の角度、距離は固定し、水平を保つ。（図1）

背面、側面も必要であれば適宜撮影し、付図、背面図、側面図などとする。



2. 動作の分解

各動作をいくつかに分解して撮影する（現在は動画で撮影し、その中から静止画としてとりだすことができる）。簡単な動作は少なく、複雑な動作は多く分解する。動きの中で変化があるポイントは、できる限り詳しく示す。このようにすると、次の作業で線を書き入れやすくなり、また図をみて学習する人にも分かり易くなる。

3. 線を書きこむ

撮影したものは、間違えないように先に番号を振るなどする。

矢印の入れ方は、手足の先か、あるいは器械の一端に起点をおき、次の図においてその手足、器械が移動した位置まで、動きの変化の軌道がわかるようにひく。

四肢を区別するために実線と点線を適宜使い分けるが、これを上下左右どう組み合わせるかは自由である。

左右回り、前後回り、上下移動などは分かり易くする。

4, 説明文

動作の順序と過程の説明文をつける。これはまず動作の方向、次に下肢の動き、次いで上肢の動き、最後に視線の方向を示す。

「に至る」「を経て」「となる」「に変える」「順次」「同時に」などの言葉で動作同士の関係を示すようにし、方向を示すには「前後上下左右」あるいは「東西南北、上下」などの言葉を適宜つかう。

動作の注意点やポイントなどは、動作の終わりにつけても、あるいは動作の過程で説明してもよい。

説明文に用いる言葉の選び方は、一般読者向けであれば簡単なものにし、読み手の専門性が高い場合は逆に専門用語を多めにする。このようにすればそれぞれの読者が理解しやすくなる。伝統的な比喻や形容の動作名称（金鸡独立など）は、全く専門用語を知らない読者にとっては難解だが、ある程度知っている読者には字数多く説明されるよりかえってわかりやすい。

5, 省略

分かり易く伝われば、動作の重複部分は省略してよい。図だけを示し説明を省く、あるいは説明も省き、どこからどこまでを省略したか明記する。

6, おわりに、武術太極拳愛好家に図解のススメ

身近な師弟や学生同士で図解を作成することは、訓練に匹敵するほど有意義である。教える側にとっても、学生の側にとっても画中から改めて発見をすることが多く、また、図中に線を引いたり説明文をつける過程は、自らの理解が弱い部分をあぶり出すことになるからである。

また図解には学習教材としてだけでなく価値がある。このデジタルの時代において、我々武術の世界はまだ血の通いあう教学の方式が廃れたわけではない。長年にわたり若い世代を直に見守る指導者、あるいは幼少から特定の師のもと武術の世界を探索する若者は多い。このようにして築いた人同士の関係は、おそらくかけがえのない宝のはずである。それは師弟のみならず学び仲間も同じである。共に費やした時間、分かち合った技（まさに功夫といえよう）を留める形としても、デジタルに劣らずこの図解が良いものだということをここで強調したい。

もし遠い未来に、過去の自分のような若者が、我々が作成した図をたよりに再び武術に夢をみるとしたら、それは非常に希望があることだと思わないだろうか？

梅か香を 袖に移して留めては
春は過くとも形見ならまし⁴⁾

華やかな衣装を着て賞状を掲げた写真は多く、それらは輝く人生を切り取ったようでとてもいいものである。しかし自らが武術にたずさわった時間、友誼をもった人たち、日々の時間の中で培った知と汗と情を留めるのには、飾り気もなく記録されるこの一見無機質な図解が、案外適していると筆者は考える。

○参考文献

- 1) [武术训练教材]编写组,『全国武术训练教材』,北京体育大学出版社,上册, pp.81-84
- 2) [全国武术馆「校」教材]编辑委员会,主编张耀庭,『全国武术馆「校」教材』,北京体育大学出版社,第一册, pp.75-76,1997
- 3) T-ENSEI KAI「カンフー体操 2 (海賊版) 刀術図解」 p.1,2023
- 4) 古今集、春上、46、よみ人知らず